# 第374施設中隊　補助要員の即応施設補強訓練を実施

*374 CES leads augmentees in expedient hardening training*

*June 24, 2025*

*By  Senior Airman Natalie Doan*
*374th Airlift Wing Public Affairs*

6月18日、横田基地で第374施設中隊は補助要員への即応施設補強訓練を行った。この訓練は、有事の際に任務遂行に不可欠な施設をどう守るかを教えることを目的としている。

即応施設補強は、使用できる資材や機材に応じた技術を用いて、施設の耐久性を高める取り組みである。訓練では、構造担当責任者ブランドン・ラッシュホーン技術軍曹が、その重要な役割を強調した。

「即応施設補強は、有事の際に運用を維持するために欠かせない。重要施設が損傷を防ぐことで人員の安全を守り、任務遂行を可能にする。別の場所に移せない特殊機能や設備を備えた施設も多く、それらの施設を失えば、同時にその特殊機能も失われる。それは基地の任務に重要な影響を及ぼす」と、ラッシュホーン技能軍曹は述べた。

実働訓練を前に、補助要員たちは横田基地における施設補強計画に関するブリーフィングを受けた。その後、第374空輸航空団司令部建物を想定した訓練施設に、高さ5フィート（約1.5メートル）の蛇行状のバリケードを設置して防護強化する作業を行った。

座学と実践を組み合わせた訓練により、補助要員は実際の任務を想定した多様な技能を身につけ、将来プレッシャー下での有事の緊急時も即応できる準備を整えた。脅威への対応には、こうした補助要員のマンパワーが不可欠である。

ラッシュホーン技能軍曹は、「すべての基地が軍全体の任務において役割を果たしており、有事には人員とインフラを守るためには施設補強措置が不可欠だ。それには多大な労力が必要とされる」と語る。

「主の任務と基地の施設補強を同時に担うことは困難だ。補助要員を配置することで、施設の防護強化をしつつ任務を継続できる。また、即応性も重要で、訓練を受けた補助要員が多数いれば、短時間で素早く対応できる」と述べた。

このような訓練を通じて、第374施設中隊と補助要員は、あらゆる環境下において重要な資産を守る準備を整え、第374空輸航空団がインド太平洋地域における主要な空輸拠点としての役割を維持し続けている。